

2018/07/15

「祈りとは何？」

「まことに、あなたがたにもう一度、告げます。もし、あなたがたのうちふたりが、どんな事でも、地上で心をつにして祈るなら、天におられるわたしの父は、それをかなえてくださいます。ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです。」(マタイ 18:19-20)

イエス様は、私たちが心を合わせて祈るならばかなえてくださると約束し、祈りがどれほど大切か、繰り返し教えていらっしゃいます。

しかし、私たちは日常生活において、祈りが聞かれることもあれば、聞かれないこともあることを体験しています。イエス様が「祈りは聞かれる」と言っておられるのは、いったいどのような意味なのでしょう。

実は、私たちの本当の願いは、表面的な問題にあるのではなく、心の根底にあります。神様は、その本当の願いをかなえてくださるのです。それは、神と一つになりたいという願いです。私たちは自分が何を求めているのか気づいていないのですが、実は、私たちの魂は神と一つになることを求めています。神様は私たちの心の奥深くにある願いまでご存知で、祈りを通して、それはかなえられるのです。ですから、祈ったのに願いがきかれなかったと言ってつぶやくのは、無益なことなのです。

■祈りとは

複数のパソコンや機器で、音楽を編集したりデータを保存したりして使う時、二つ以上のものの時間を合わせることを同期と言います。祈りとは、まさに神と同期する行為です。それは、神と歩調を合わせる行為、あるいは、神と一つになろうとする行為とも言えるでしょう。私たちが祈る理由は、普段神と同期していないからです。祈りによって神と一つになることで、神に近づくことができ、神の思いを知ることができるのです。

私たちの住む世界は有限の世界であり、神の住む世界は永遠の世界です。祈りとは、時間に拘束されたこの世界から、永遠という世界を垣間見ようとする行動です。永遠の世界に、時間は存在しません。祈りとは、時間の制約を壊そうとする戦いであり、肉の思いとの戦いでもあります。

祈りと同じように神に近づく行為である賛美は、音楽を楽しく感じることで時間という概念が消え、心が永遠の中に入る心地よさを味わうことができます。賛美は、音楽を通して、永遠の中で神と結ばれ、一つになるという働きをするのです。

有限の世界で生きる私たちが祈ろうとすると、肉の制約との戦い・肉の思いとの戦いが始まります。弟子たちも初めはこの戦いに敗れ、自分の力では1時間も祈っていることができ

ませんでした。私たちも、疲れるし眠くなるので、つい面倒くさくなって祈りをやめようとしてしまいがちです。そこで、神様はここに助け手を送り、私たちの祈りを助けて、祈りを通して神の世界を垣間見れるようにしてくださいます。

「御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、どのように祈ったらよいかわからないのですが、御霊ご自身が、言いようもない深いうめきによって、私たちのためにとりなしてください。」（ローマ 8:26）

祈りには、神のとりなしがあります。その一つは、ペンテコステの日に実現した聖霊のバプテスマによる異言の祈りです。この時弟子たちは、助け主なる聖霊のとりなしによって祈れるようになることを、初めて体験しました。神はこの他にも、私たちの魂を神の元に引き上げるため、様々な形で祈りを助けてくださいます。

■なぜ祈る必要があるのか

1. わたしたちはキリストの体の器官だから

「あなたがたはキリストのからだであって、ひとりひとは各器官なのです。」
(I コリント 12:27)

私たちはそれぞれが神の器官なので、キリストの体として機能していないと調子が悪くなってしまいます。神と同期を取り、祈って神と一つにならなければ、器官として動くことができず、霊的に調子を崩してしまうのです。

自分の調子が悪いと感じる時、どんなに知識をつけても、気晴らしをしても、勝手な動きをしていたのでは解決されません。私たちはキリストの器官なので、祈りによって同期を取らない限り、調子は戻らないのです。

2. 互いにつながっているから

「もし一つの部分が苦しめば、すべての部分がともに苦しみ、もし一つの部分が尊ばれば、すべての部分がともに喜ぶのです。」（I コリント 12:26）

一人一人がキリストの器官であるということは、人は互いにつながっているということです。ですから、互いを助け合うために祈る必要があるのです。

人間の体は、どこかが弱ると他の機能が助けるようになっています。必ずどこかに弱っている人がいますから、互いに祈る必要があり、この祈りによって、自分が弱った時も引き上げられるのです。

教会のため、世界の兄弟姉妹のため、また、まだ神と一つになっていない魂のため、救い

のためにも祈りましょう。

3. 戦いに勝つために祈る

「私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。ですから、邪悪な日に際して対抗できるように、また、いっさいを成し遂げて、堅く立つことができるように、神のすべての武具をとりなさい。」(エペソ 6:12-13)

「すべての祈りと願いを用いて、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのためには絶えず目をさまして、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くし、また祈りなさい。」(エペソ 6:18)

戦いとは、否定的な思いとの戦いです。私たちは、自分や人のことをダメな者だと思ってしまうのですが、その思いに勝つためには、どうしても祈りが必要です。

■ 祈りの力

リンカーンは、南北戦争で負けそうな時、国民に祈りを呼びかけました。これによって戦況が回復し、奴隷は解放されました。彼の働きには常に祈りがあり、彼は祈りによって常に神に導きを求め続けました。また、台湾の民主化に貢献した李登輝元総裁も、牧師となって伝道することを目指していた人物であり、祈りなくしては何事もなすことはできないと語っています。元アメリカ大統領のジョージ・ブッシュ・シニア（父）も、ことあるごとにキリストを証ししています。

日本の歴史を変えた人々にも、実はクリスチャンが大勢います。勝海舟は、アメリカ留学中にクリスチャンになりました。彼は、立場上クリスチャンだとは言えず、晩年になってから洗礼を受けたのですが、讃美歌を訳したり、自宅を教会に捧げたりしました。現在、彼の自宅は赤坂教会として残っています。彼は人々から嫌われることを恐れず正しいことを実行しようとする人でした。それは、神に愛されていることを知っていたからです。

明治維新の立役者となった坂本龍馬や西郷隆盛が勝海舟の影響を受けています。西郷には山本というクリスチャンとの出会いもあり、かの有名な「敬天愛人」という「神を愛し人を愛せよ」という言葉を残しています。福沢諭吉は、信仰の告白こそしていませんが、自分の子どもたちに聖書を教え、教会も建てています。当時はキリスト教の迫害がひどい時代でしたが、彼らばかりではなく多くの方がキリスト教に感化されていたのです。そのような中で、江戸城無血開城・明治維新という、世界でもまれに見る、民族が対立することなく、血が流されない革命が成功したのは、彼らの働きと共に、その背後に多くの祈りがあったことは想像に難くありません。

また、多くの潜伏クリスチャンたちも、日本のために神の守りと導きを祈っていたことでしょう。

このように、日本が変わってきた背景に、それぞれの祈りがあったことに目を留めるなら、祈りには素晴らしい力があることがわかります。私たちはもともと神とつながって造られているのですから、神と一つになることによって、力を得るようになるのです。

■どのように祈るか

1. 問題にぶつかったら祈る

「いつでも祈るべきであり、失望してはならないことを教えるために、イエスは彼らにたとえを話された。」(ルカ 18:1)

神の思いに近づき、何をどうすれば良いか導きを求めるなら、必ず答えが来ますから、あきらめずに祈り続けましょう。問題にぶつかるたびに祈り、導きを求めましょう。人に相談するのではなく、まず神に祈るのです。

2. 弱っている人のために祈る

「信仰による祈りは、病む人を回復させます。主はその人を立たせてくださいます。また、もしその人が罪を犯していたなら、その罪は赦されます。ですから、あなたがたは、互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい。いやされるためです。義人の祈りは働くと、大きな力があります。」(ヤコブ 5:15-16)

私たちの周りには、必ず病気の方や、救いを必要としている人がいます。祈りには大きな力がありますから、互いのために祈ることが大切です。

ぜひ祈りから始まって祈りに進む生き方を身に着けましょう。それによって、靈的に力を得ることができます。1時間も祈っていることができず、イエス様の十字架を見て逃げ出してしまった弟子たちも、祈るようになってから宣教できるようになりました。祈りは、自分で頑張るものではありません。神のとりなし、助けによって祈るものです。まことの力を手にしましょう。